

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Dietary intake of omega-3 PUFAs and fish in relation to mother-to-infant bonding in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

オメガ3脂肪酸および魚の摂取量とボンディング(対児愛着)との関係:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2025 DOI: 10.1038/s41598-025-02983-z

筆頭著者名: 三善 郁代

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠中のオメガ3系多価不飽和脂肪酸(オメガ3系PUFA)および魚類の食事摂取量と、産後1ヵ月および6ヵ月における母親のボンディング(対児愛着)との関係を検討した。

方法:

本研究は、全国的な出生コホート調査であるエコチル調査に参加した91,147人の妊婦を対象に、妊娠中のオメガ3系PUFA摂取量と産後1ヵ月および6ヵ月時点のボンディングとの関連について分析した。ボンディングの評価は「Mother-to-Infant Bonding Scale (日本語版) (MIBS-J) の5項目で測定し、母親感情の欠如(lack of maternal feeling: LMF)と育児不安(anxiety about caregiving: AC)のスコアを評価した。オメガ3系PUFA摂取量は食物摂取頻度調査票(Food Frequency Questionnaire, FFQ)で評価した。共変量を調整した一般化線形モデルで統計解析を行った。

結果:

オメガ3系PUFAの摂取量が多い母親は、年齢・教育水準および世帯年収が有意に高い傾向があった。オメガ3系PUFA摂取量が多いほど、産後1ヵ月および6ヵ月の母親感情の欠如および育児不安のスコアは有意に低下し、良好なボンディングと関連していた。一方、魚摂取量との関連はなかった。

考察(研究の限界を含める):

妊娠中のオメガ3系PUFA摂取は、母親の情動調整や育児不安の軽減を通じてボンディングを良好に保つ可能性があると考えられる。オメガ3系PUFAは情動調整に関わる神経伝達物質やホルモンの調節にも関与しており、母性行動の促進や不安の緩和に寄与したと考えられる。魚摂取量よりPUFA摂取量の方が強く関連したのは、魚に含まれる有害物質の影響が一因の可能性がある。本研究の限界として、自己報告式質問票であったことやFFQの精度、対象が欧米人よりも魚を多く摂取する日本人の妊婦に限られる点などが挙げられる。

結論:

本研究において、妊娠中のオメガ3系PUFA摂取量が多いと母親のボンディングが良好であることに寄与する可能性が示唆された。